

学校法人カリタス学園  
カリタス女子短期大学  
機関別評価結果

平成 21 年 3 月 24 日  
財団法人短期大学基準協会

## カリタス女子短期大学の概要

設置者	学校法人 カリタス学園
理事長名	クローデット・ベルニエ
学長名	久山 宗彦
ALO	加藤 美保
開設年月日	昭和41年4月1日
所在地	神奈川県横浜市青葉区あざみ野2丁目29番1

## 設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
言語文化学科	英語・英語圏文化専攻	65
言語文化学科	仏語・仏語圏文化専攻	30
言語文化学科	コミュニケーション文化専攻	30
	合計	125

## 専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

なし

## 通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

## 機関別評価結果

カリタス女子短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 21 年 3 月 24 日付で適格と認める。

## 機関別評価結果の事由

### 1. 総評

平成 19 年 6 月 27 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

学校法人カリタス学園はカナダのケベック・カリタス修道女会の教育活動の一環として設立されたカトリックの学校で、校名の CARITAS は、ラテン語で「愛」を意味する。当該短期大学は、昭和 41 年に創設され、それぞれの時代、社会に呼応して歩み、変遷し、現在の言語文化学科を設置するに至っている。

建学の精神であるキリスト教の「愛の精神」に基づく奉仕の心を養い、現代社会の中で貢献できる人材の育成は、当該短期大学設立以来目指してきた教育理念である。この理念が実社会で実践的に活用できるか、時代・社会のニーズにこたえるべく教育の改革に努力が図られている。豊かな心で世界と向き合うために当該短期大学の 2 年間は、将来への様々な展開へ向けてのファーストステージと位置付け、「力のつく短期大学」として基礎を学び、新たにセカンドステージ、さらにサードステージへとチャレンジしていく学生の養成が当該短期大学の大きな特色となっている。

教育課程は、教育の目的・目標の達成に配慮され、体系的に編成されている。専門教育も習熟度別クラス編成や徹底した少人数クラス編成で教育効果をあげており、免許・資格取得の機会も設けられている。授業評価が実施され、同時に「教育の研究」会が開催され、授業の改善に努めている。また、国際理解教育や四年制大学への編入学に組織的に取り組み、多くの効果と実績をあげている。

学生に対する支援は、組織的に行われ、高い就職率、四年制大学への編入状況から目に見える支援体制の確かさが確認できる。

教員の研究活動は、紀要『CARITAS』や『学報』などで研究成果の発表が奨励され、加えて、「研究休暇」（サバティカル・リーブ）の制度があり、論文発表や国の内外での学会での発表機会も確保されている。

社会的活動に関しては、「カリタス女子短期大学市民講座」、小さな学舎を意味する「プティ・コレージュ カリタス」という学外の人間を対象とした教養講座を開講している。また、「かながわ生涯学習推進協議会」や「神奈川県私立短期大学協会」の役員に当該短期大学の教職員が就任するなど積極的に取り組んでいる。学生の社会的活動においては、地

域活動、地域貢献あるいはボランティアに参加しており、建学の精神が学生の心にも浸透していることがうかがえる。

法人組織の管理運営においては、理事長が、寄附行為上の規定にのっとり、理事会、常務会でリーダーシップを発揮し、適切な管理運営を行っている。短期大学の運営においても各種の委員会などのボトムアップによる提案重視の運営がうかがえ、学長は学科長、専攻主任、事務長などと協議し合い、また、教授会でも学長のリーダーシップは発揮されている。

過去3ヶ年、収容定員を充足し、財政的にも安定している。財務管理運営において、教育研究活動などの目的達成のために常に検証し、改善のための努力を払っている。

## 2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

### (1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

#### 評価領域Ⅱ 教育の内容

- 教育研究の機会が非常に多く設けられ、授業改善のためのファカルティ・ディベロップメント（FD）活動は非常に活発である。特に、年度始めに全学園教員参加で開催される学園研修会や学園の各学校教員との相互の授業参観を行う「教科教育分科会」は、同一の教育理念を持つ学園としての共通意識を持つのに役立っていると思われる、一貫教育の利点を生かしている。
- 海外留学のプログラムは短期派遣・長期派遣など五つ用意されており、非常に充実している。

#### 評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 図書館には、カナダ関連文献の充実のため、「カナダ・コーナー」を設けるなどして、学生の図書館利用を活発にするための努力が行われ、その利用率は極めて高い。
- 「日本図書館協会短大部会」、「神奈川県内大学図書館相互協力協議会」など学外諸団体、「全国図書館大会」や各種研修会への参加を積極的に行っている。当該短期大学の担当者が「日本図書館協会短大部会」の幹事としてワークショップを担当したり、当該

短期大学図書館が「神奈川県内大学図書館相互協力協議会役員館」の役割を担うなど、積極的な対外活動を行っている。

#### 評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 資格取得に関しては、教育課程の履修によるもの、取得を支援するものともに高い実績を残しており、その取り組みが効果をあげていることがうかがえる。
- 就職先の企業による卒業生アンケートを実施し、その結果を綿密に分析して教育に反映していることは、企業が望む人物像を把握し、それを教育の現場にフィードバックしている。

#### 評価領域Ⅵ 研究

- 「研究休暇」（サバティカル・リーブ）が認められている。

#### 評価領域Ⅶ 社会的活動

- 派遣奨学生として留学から帰国した学生を外国人ゲストとのパネルディスカッションに参加させるということは、在学生たちのみならず参加の地域住民に対しても当該短期大学の評価を高めている。

### （２）向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

#### 評価領域Ⅷ 管理運営

- 監事と公認会計士の定期的意見交換の場の設定が望まれる。

### （３）早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

### 3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

#### 評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

キリストの教えに基礎を置いたカリタス“CARITAS”(「愛」)の精神に基づく「奉仕の心を養い、現代社会の中で貢献できる人材の育成」の建学の精神・教育理念が確立し、明確に示されている。それは学生要覧、入学式、新入生オリエンテーション親睦旅行など諸行事において、あるいは全教職員の学園研修会などでそれぞれ学生、教職員に共有され、外部にはウェブサイト、短期大学パンフレット、学園総合パンフレットなどで周知が図られている。

「キリスト教的世界観に基づく人間教育」の教育理念を背景にした教育目的・教育目標に即して、英語科、仏語科が開設され、平成7年、情報化社会への変化、国際化の進展、及び社会の多様化に対応するため、2学科を一つに統合し、言語文化学科を開設した。学科の教育目標・教育目的は、「キリスト教人間学」などの授業や入学式、オリエンテーション、学位授与式、学園研修会など、様々な機会に周知させている。

#### 評価領域Ⅱ 教育の内容

設置学科の教育課程は、建学の精神や教育目標を実現するために、キリスト教・語学・文化関連科目を必修化しつつ、幅広い教養教育を目指した体系的な編成となっており、学生の科目選択の自由度も高い。授業形態や必修・選択科目のバランスは適切で、語学を中心に少人数制を生かしたクラス編成により、学生の学習への意欲と努力の多様化に対応し、資格取得や補習講座の実施にも力を入れている。単位認定と評価は適切である。授業計画から評価方法に至るまでを網羅したシラバスは、学生が理解しやすいものという配慮がみられ、学生による授業評価の実施とともに、教育課程改善への意欲がうかがえる。専攻

会が定期的開催され、教員間の意思の疎通・協力体制がしっかりと築かれており、「FD推進委員会」主導の下、各教員は研究会や研修会へ積極的に参加し、授業改善のための活動は活発である。

### 評価領域Ⅲ 教育の実施体制

専任教員数は短期大学設置基準の規定を充足しており、年齢構成もバランスが取れている。採用、昇任は選考基準に従って適切に行われ、各教員は授業担当、研究活動、学生指導、教育研究上の業務、いずれも非常に意欲的に取り組んでいる。校地・校舎面積は短期大学設置基準の規定を充足している。図書館は整備され、学生の図書館利用を活発にするための努力が日常的に行われ、図書館の利用率を高めるのに貢献している。購入図書選定システムや廃棄システムも確立され、学外の図書館との交流も盛んであり、活発な図書館活動を展開している。

### 評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

単位取得状況は妥当な範囲であり、単位認定の方法は適切である。授業終了後の学生の満足度調査は担当教員ごとに実践されている。休学者や留年者数はごく少数であり、退学者数も妥当な範囲である。これらの学生に対するケアも少人数制の特徴を生かし、きめ細かくなされている。資格取得については、教育課程の履修によるもの、取得を支援するものともに高い実績を残している。教養系の短期大学として当該短期大学の2年間をファーストステージと位置付け、専門就職(教職)も含む幅広い就職、四年制大学への編入学や海外への留学と、多様な進路が用意されている。教育の達成度を測るため「卒業時満足度調査」や「卒業後アンケート」を実施したり、「卒業生との懇談会」など卒業生と接触する機会を多く設けており、同窓会との連携も非常に密接である。編入学希望の学生への指導体制は、「進学委員会」による包括的かつ個別的指導をきめ細かく行う体制ができあがっており、編入先からの意見聴取も行っている。

### 評価領域Ⅴ 学生支援

学園案内、ウェブサイトなどでミッションスクールとしての建学の精神や教育理念が十分に提示されている。また、指定校推薦入学選抜、公募推薦入学選抜、対話型自己推薦入学選抜、一般入試など、多様な入学選抜の方法に合わせた情報が提供され、公正な選抜が行われていると評価できる。学生生活に円滑に入っていけるようにオリエンテーションにも十分に時間をかけており、適切なものである。学生の学習意欲を引き出すための支援体制としてオフィス・アワーの充実など努力が認められる。学生のメンタル面でのケアに有資格者の配置が望まれる。進路についての支援は就職率が9割を超えており、四年制大学と専門学校への進学状況から十分に評価できる。

## 評価領域Ⅵ 研究

年 1 回刊行の紀要『CARITAS』によって教員の研究発表の場が保障されており、紀要の過去のコンテンツはウェブサイトに掲載されている。投稿点数も年々数を増しており研究に対する取り組みが実を結んできていることが評価できる。学長のリーダーシップの下に教育に関する研究への取り組みも進んでいる。

また、「研究休暇」（サバティカル・リーブ）の制度が設けられており、今後一層研究活動が盛んになることが期待される。

## 評価領域Ⅶ 社会的活動

カナダのケベック・カリタス修道女会の活動が建学の基礎になっているということからも、社会的活動については積極的に行われている。地域住民を対象とした公開講座や当該短期大学の特色である語学（英語、フランス語）と聖書研究を中心とした教養講座は 20 年以上の実績があるという点は大いに評価できる。学園名のカリタスはラテン語で「愛」を意味するという建学の精神が社会的活動にも反映されており、多くの活動が教職員・学生の協同で行われている。また、「かながわ大学生涯学習推進協議会」、「神奈川県私立短期大学協会」、「大学・都市パートナーシップ協議会」に参加し、地域社会の中で他の教育機関や行政と協同して社会的活動を実現している。

## 評価領域Ⅷ 管理運営

理事会が学校法人の運営責任主体であることは確立し、理事長、学長のコミュニケーションも良好である。また、短期大学についても、学長のリーダーシップの下に全専任教員を構成員とする教授会が定期的に開催され、教育研究上の事項が適切に審議・決定されている。加えて、最近では職員が部会や委員会へ参画することを通して教員と事務職員との協働も実践されていることは評価できる。

## 評価領域Ⅸ 財務

予算の策定、決定、執行などは円滑に行われており、計算書類などは公認会計士の監査の下、適正に表示されている。学校法人全体で平成 18 年度支出超過となっているが、平成 19 年度収入超過となった。これは、中学校・高等学校及び法人本部のある中野島キャンパス校舎などの建て替えに伴う一過性のものと理解できる。ただし、かなりの施設設備投資をすべて自己資金で賄っていることから資金の貯えが減少していることは否めず、今後の計画的な積み上げが必要である。防犯面についても安全性への配慮が必要と認められるので今後の改善が望まれる。

## 評価領域Ⅹ 改革・改善

学園創立 40 周年を契機として始まった学園研修会などに全教職員が積極的に参加し、



学園全体が一丸となって社会や時代のニーズに対応すべく、改革・改善に必死に取り組み、成長しようとしている。

自己点検・評価のための規程及び組織が整備され、実施体制が確立されている。毎年、自己点検・評価を行っており、その報告書が定期的に公表されている。報告書の作成にあたり、特定の一部の教職員だけではなく全教職員が参加し、組織的に関与するような体制作りが行われている。自己点検・評価の成果の活用は、各部署の対応に任せているが、全学的で組織的な実効性を持たせるよう配慮が望まれる。

相互評価については、平成11年12月から平成13年12月までの2年間にわたり、長野県の清泉女学院短期大学と相互評価を実施し、その結果を生かし改革・改善に取り組んでいる。相互評価の規程は、自己点検・評価規程にその項目が追加され、盛り込まれている。

今回の第三者評価にあたり、本協会のマニュアルにのっとり、自己点検・評価報告書を作成することは教育活動全般にわたって総点検する機会となり、当該短期大学の更なる発展に資する活動を期待したい。